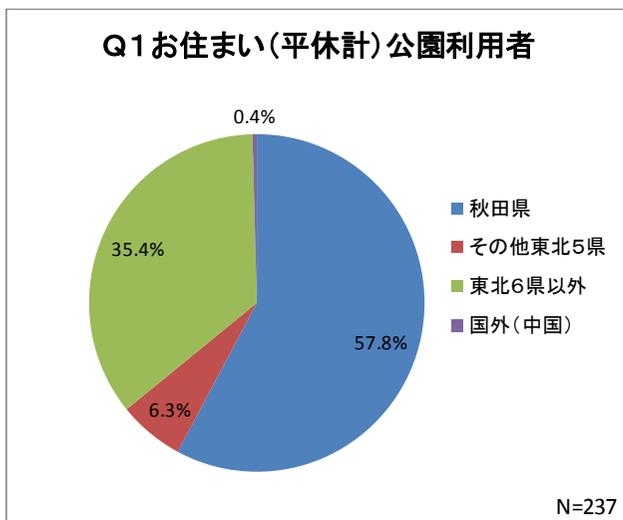


市民等意向調査の結果について

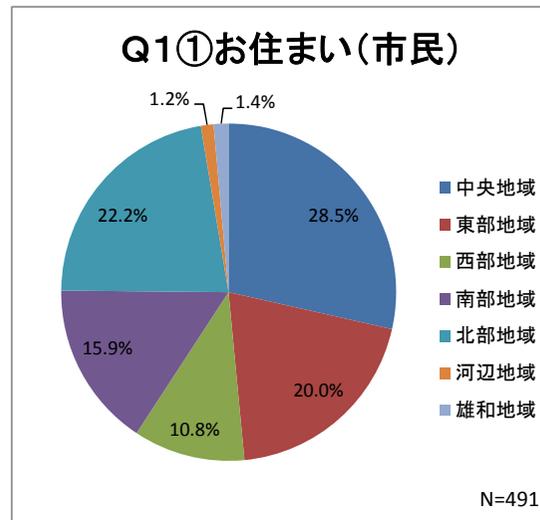
1. 調査概要
2. 利用者特性、来園目的
3. 利用施設
4. 改善すべき点
5. 民間活力・事業参入意向
6. 自由記述における意見
7. 利用実態および市民等ニーズのまとめ

1. 調査概要

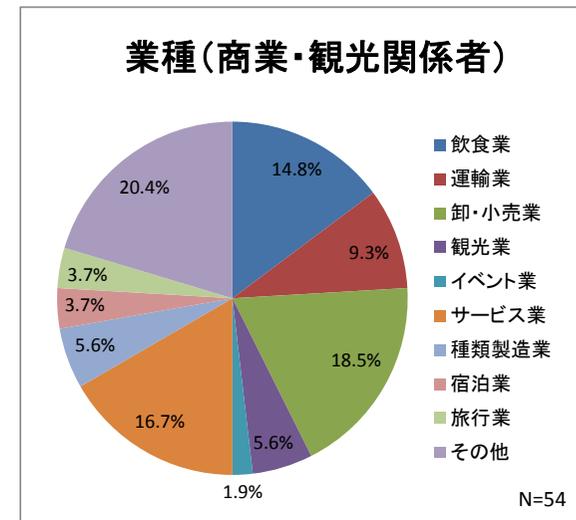
調査事項	実施概要	備考
①公園利用者アンケート	調査日: 平日7/26(水)、休日8/5(土) 回収数: 237票(平日102票, 休日135票)	休日調査は竿燈まつり期間
②市民アンケート	調査日: 7~8月(無作為抽出, 郵送) 対象者: 市内在住の18歳以上1000人 回収数: 494票(回収率49.4%)	
③学生アンケート	調査日: 8月(学校へ配布) 対象者: 近隣高等学校の学生2年生 回収数: 223票	国学館高等学校、秋田和洋女子高等学校
④児童アンケート	調査日: 8月(学校へ配布) 対象者: 近隣小学校の児童5年生 回収数: 227票	保戸野、中通、明德、東、旭北小学校
⑤商業・観光関係者アンケート	調査日: 8~9月(郵送) 対象者: 市内企業149社、中心市街地の商店街組合18社の計157社 回収数: 63票(回収率37.7%)	



■図1 居住地 (公園利用者)



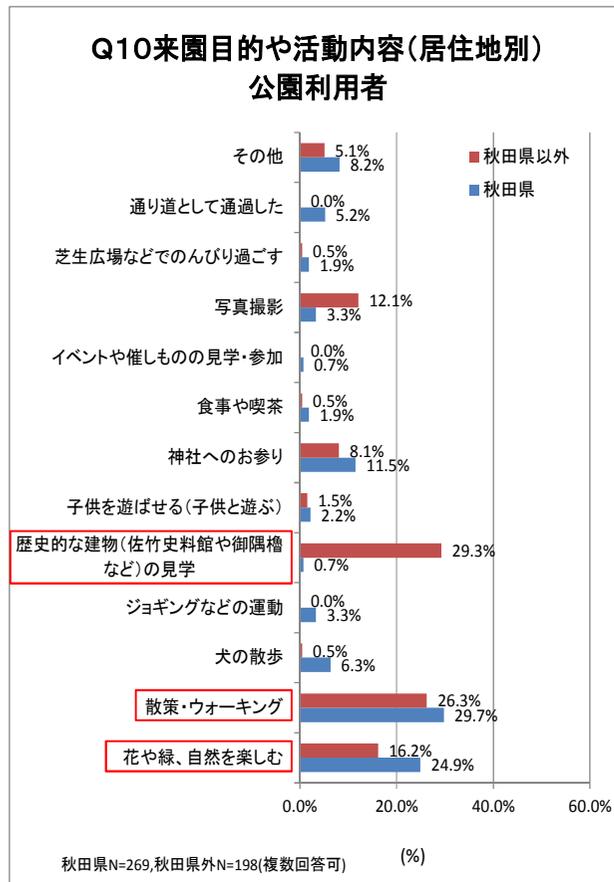
■図2 居住地 (市民)



■図3 業種 (商業・観光関係者)

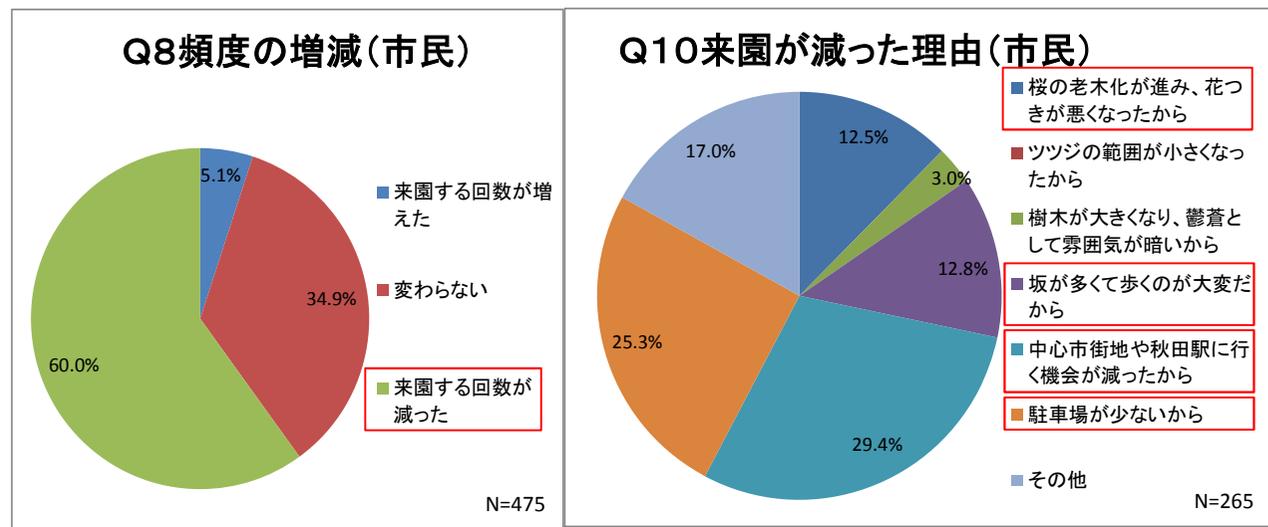
2. 利用者特性、来園目的

- 公園利用者は、日常利用(市内)と観光等利用(県外)に大別され、利用目的は日常利用では散策・ウォーキング、花や緑の鑑賞であり、観光等利用では歴史散策・見学が多くなっています。(図4)
- 市民、学生、児童アンケートでは、利用目的は、いずれも花や緑の鑑賞、散策・ウォーキングが多いですが、学生や児童ではイベントや催し物の見学・参加、ジョギングなどの運動も多くなっています。



■図4 居住地別 来園目的や活動内容 (公園利用者)

- ただし、6割が昔と比べて「来園回数が減った」と回答し、中心市街地の集客性の低下、千秋公園の魅力(さくら等)の低下、公園への交通の利便性が悪い(駐車場が少ない)ことが悪循環となり、近年の来園者数が頭打ちとなっている要因となっています。(図5、6)



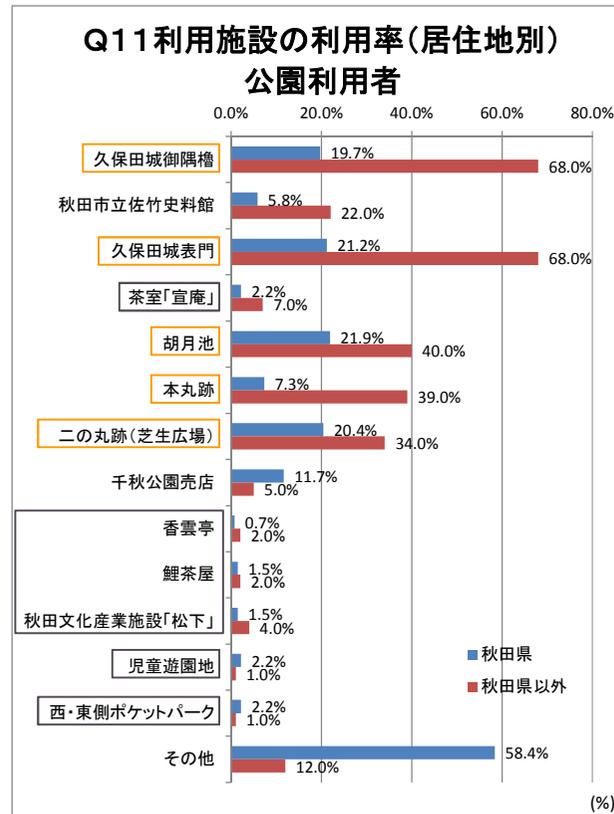
■図5 頻度の増減 (市民)

■図6 来園が減った理由 (市民)

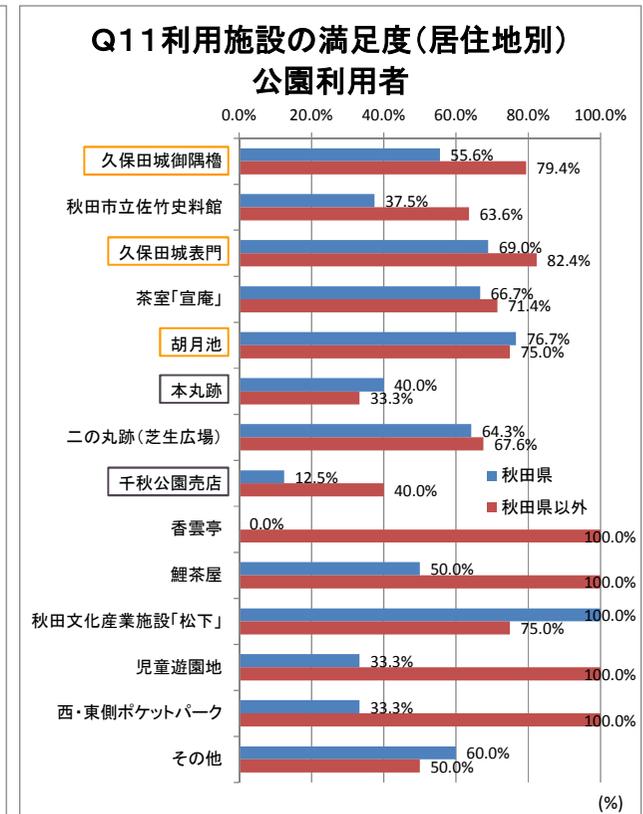
3. 利用施設

- 利用が多い施設は、各アンケートとも二の丸跡(芝生広場)、御隅櫓、本丸跡、表門、胡月池等となっていますが、公園利用者アンケートでは、その他として園路(散策路)の利用が多くなっています。(図7)
- 利用が少ない施設は、各アンケートとも茶室「宣庵」、各私設の店舗、児童遊園地、ポケットパークなどとなっています。(図7)

- 利用が多い施設では、御隅櫓、表門、胡月池は比較的満足度が高くなっていますが、売店、本丸跡は満足度が低くなっています。(図8)



■図7 利用施設の利用率(居住地別)



■図8 利用施設の満足度(居住地別)

4. 改善すべき点

- 改善すべき点は、各アンケートとも駐車場の増設、さくらの老木の更新、支障木の伐採などが多くなっています。(下表)
- 特徴的な傾向として、県外利用者(観光)は、案内板や誘導標識の充実、学生は飲食施設やイベントの充実、商業・観光事業者は歴史文化的なイベントや中心市街地と連携した体験・イベントの充実を求める意見が多くなっています。(下表)

改善事項	公園利用者(県内)	公園利用者(県外)	市民	学生	商業・観光関係者
1位	さくらの老木の更新、 支障木の伐採 (35.0%)	案内板や誘導標識 の充実(36.0%)	駐車場の増設 (61.7%)	カフェ・レストラン (35.9%)	駐車場の増設 (58.7%)
2位	駐車場の増設 (24.8%)	ハスの鑑賞用の棧 橋やデッキ(14.0%)	さくらの老木の更新、 支障木の伐採 (37.9%)	コンビニエンススト ア・売店(34.1%)	歴史・文化的なイベ ントや催し物の充実 (38.1%)
3位	遊び・休憩ができる 広場、開放空間 (14.6%)	駐車場の増設 (13.0%)	遊び・休憩ができる 広場、開放空間 (31.0%)	冬季のイベント(イル ミなど)(31.8%)	さくらの老木の更新、 支障木の伐採 (38.1%)
4位	案内板や誘導標識 の充実(13.9%)	主要園路のバリアフ リー化(12.0%) 黒門などの復元 (12.0%)	カフェ・レストラン (28.7%)	歴史・文化的なイベ ントや催し物の充実 (31.4%)	中心市街地と連携し た体験やイベント (36.5%)
5位	カフェ・レストラン (9.5%)	カフェ・レストラン (12.0%)	中心市街地と連携 した体験やイベント (24.9%)	主要園路のバリアフ リー化(28.7%)	カフェ・レストラン (31.7%)

5. 民間活力・事業参入意向

- 千秋公園の活性化には、公園内でのイベントや催事、カフェ・レストランの充実を求める意見が多くなっています。(前頁表)
- 千秋公園での事業参入意向としては、カフェ・レストラン等の収益事業、イベント(祭り等)時の出店(飲食)意欲のある企業が複数みられ、民間活力導入の可能性が窺えます。(アンケート結果より)

6. 自由記述における意見(アンケート結果より)

- 施設整備(ハード)に関する意見としては、案内標識、駐車場、飲食施設、遊戯施設、休憩施設に対する要望が多くみられ、特に児童では、公園の緑や自然、地形を活かした遊びや体験(例:アスレチック、キャンプ、サイクリング等)が多くなっています。
- 管理・運営(ソフト)に関する意見では、さくらの更新、イベントの充実、公園のPR(情報発信)などが多くみられ、特に学生や児童はイベントの充実に関する意見が大半を占めています。
- 一方、公園利用者アンケートでは、「このままで良い」等の現状維持に肯定的な意見も多くなっています。

7. 利用実態および市民等ニーズのまとめ

① 来園者の属性(年齢や居住地)に応じた来園目的やニーズの多様さ

- 市民は日常的な利用として、花や緑の鑑賞、散策・ウォーキング、学生や児童はイベントや催し物の見学・参加、ジョギングなどの運動、県外利用者は歴史散策等(観光)など、来園者の属性に応じて来園目的や活動内容が多様化しています。
- そのため、改善すべき要望も、自然(さくらの更新)、歴史文化(案内板、歴史的建造物の復元)、その他公園利用に関する利用(駐車場の増設、カフェ・レストラン、イベント充実)など、来園目的に応じて優先順位が異なっており、ターゲットに応じた再整備が必要となっています。
- また、歴史文化・自然的な価値の保全・継承すべき課題と、利用促進・利便性の向上に関する課題が相反しています。(例:城跡の地形保存⇔園路のバリアフリー化、自然・緑の保全⇔開放的な空間、眺望の確保)

② 利用率の格差と満足度が低い公園施設

- 園内施設は、二の丸跡(芝生広場)、御隅櫓など利用が多い施設と、児童遊園地、ポケットパークなどの利用が少ない施設に大別され、利用状況の格差が大きくなっています。また、散策・ウォーキング、ジョギング等の回遊的な利用(園路)も多くなっています。
- 比較的利用されているものの、千秋公園売店、本丸跡は満足度が低く、改善を図っていく必要性があります。

③ 民間活力導入の可能性

- 民間企業よりカフェ・レストラン等の収益事業に関する事業参入意向が見られ、民間活力導入の可能性が示唆されます。
- イベント(祭り等)時の出店(飲食)などの参入意欲も複数みられるため、参入しやすい機会(イベントの充実)や場所(建物や敷地)の提供により、公園や周辺地域の利用促進や活性化が期待できます。